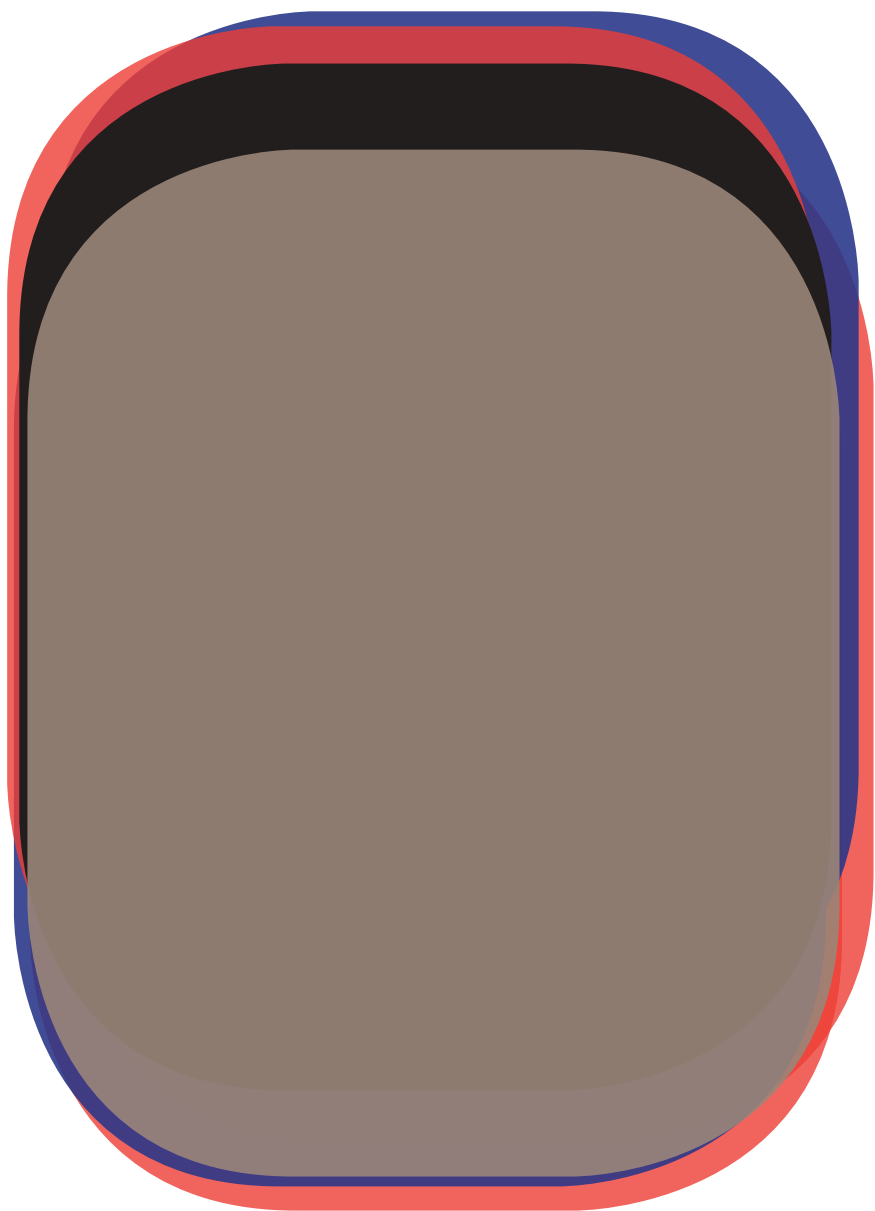


ロームシアター京都



自主事業ラインアップ

— 2018.10 — 2019.3

ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都 2018年度(平成30年度)自主事業ラインアップ

今年度は2016年(平成28年)1月のリニューアルオープンから3年目、劇場のレギュラーシーズンとしては2年目を迎えます。

京都に「劇場文化をつくる」ことを目指し、自ら企画に取り組んだ多彩な事業を引き続きお届けします。

洋の東西を問わず、世界水準の優れた作品をお届けすることはもちろん、劇場の財産となる作品のプロデュースや次代を担う芸術家の育成にも、より一層力を入れて取り組みます。また京都のさまざまな施設や団体と連携し、世代・趣味趣向の違いを越えた人々が参加できる多彩なプログラムを通じて、劇場をハブに多様な出会い・交流・対話を生み出します。

こうしたロームシアター京都で生まれる営みが蓄積となり、さらに人々が引き寄せられ、日常のかつ継続的にロームシアター京都に足を運ぶ、あるいは関心を寄せるというサイクルを生み出すことを目指します。

ロームシアター京都

私たちが共有する時間

2018年度自主事業の企画にあたって

劇場は建物として物理的に存在するだけでなく、時代の流れの中で様々な人々が行き交う広場である。長期的視野に立った歴史的視座と、世界中を視野におさめた空間的視座の交差する地点が〈いま・ここ〉であり、それを体験できる場が「ライブ」という意味を超えた、本質的な意味での「劇場」と言えるのではないだろうか。

時代を超えて文化を受け継ぐ共同体に属する人々、あるいは同時代に生きる世界中の人々が共有するものとは何か、舞台芸術を通じて考えてみたい。

そのために、古今東西のクラシック(古典)を再訪し、それらが繰り返しレパートリーとして上演されることの意味や、新しい創作にインスピレーションを与える価値を見つめ直していく。同時に、作品と社会の関係や作品を生み出し育むための様々な視点を得ながら、ロームシアター京都ならではの方法を試行錯誤し、劇場が果たすべき役割を見出していく。

プログラムディレクター 橋本裕介

月	日	会場	事業名	ジャンル
10	5 ^{〔金〕}	ローム・スクエア	ニュイ・ブランシュKYOTO 2018 ダンスショーイング「kankoroboo」	総合
	6 ^{〔土〕} -28 ^{〔日〕}	ロームシアター京都 ほか	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2018	総合
	29 ^{〔月〕} 、31 ^{〔水〕}	メインホール	平成30年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演 『魔笛』	音楽
11	4 ^{〔日〕}	ノースホール ローム・スクエア	若者文化発信事業 「ユスカル!〜若者文化市〜」	総合
	10 ^{〔土〕}	パークプラザ 3階共通ロビー	いまを考えるトークシリーズ Vol.5「家族」という名の国境を越えて(仮)	参加する劇場へ
	27 ^{〔火〕}	サウスホール	第343回 市民寄席	演劇
12	1 ^{〔土〕} 、2 ^{〔日〕}	京都市呉竹文化センター	CIRCULATION KYOTO ―― 劇場編 1 中野成樹＋フランケンズ	参加する劇場へ
	9 ^{〔日〕}	サウスホール	京都オペラ協会定期公演 『カプレーティ家とモンテッキ家』 ～ロミオとジュリエット～	音楽
	14 ^{〔金〕} -16 ^{〔日〕}	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” 1 ブルーエゴナク	総合
	15 ^{〔土〕} 、16 ^{〔日〕}	京都市西文化会館ウエスティ	CIRCULATION KYOTO ―― 劇場編 2 村川拓也	参加する劇場へ
	上旬 (予定)	パークプラザ 3階共通ロビー	いまを考えるトークシリーズ Vol.6「人間の展示」と博覧会 ～近代日本の他者像(仮)～	参加する劇場へ
1	6 ^{〔日〕}	メインホール	京響クロスオーバー 「バレエ×オーケストラ」～ニューイヤー・ガラ～	音楽
	11 ^{〔金〕} 、12 ^{〔土〕}	サウスホール	笠井 叡 迷宮ダンス公演 『高丘親王航海記』	舞踊
	12 ^{〔土〕} 、13 ^{〔日〕}	京都市東部文化会館	CIRCULATION KYOTO ―― 劇場編 3 相模友士郎	参加する劇場へ
	17 ^{〔木〕} -20 ^{〔日〕}	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” 2 安住の地	総合
	27 ^{〔日〕}	サウスホール	第344回 市民寄席	演劇
2	2 ^{〔土〕} 、3 ^{〔日〕}	京都市北文化会館	CIRCULATION KYOTO ―― 劇場編 4 遠山昇司	参加する劇場へ
	3 ^{〔日〕}	サウスホール	シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.2 能楽『鷹姫』	演劇
	10 ^{〔日〕} 、11 ^{〔月・祝〕}	サウスホール	レパートリーの創造 木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』 せっしょうがっぼうがっじ	演劇
	15 ^{〔金〕} 、16 ^{〔土〕}	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” 3 akakilike	総合
	20 ^{〔水〕} -24 ^{〔日〕} (予定)	ノースホール	第4回 全国学生演劇祭	演劇
3	15 ^{〔金〕} 、17 ^{〔日〕}	メインホール	小澤征爾音楽塾 オペラ・プロジェクトXVII ビゼー 歌劇『カルメン』	音楽
	23 ^{〔土〕} 、24 ^{〔日〕}	京都市右京ふれあい文化会館	CIRCULATION KYOTO ―― 劇場編 5 きたまり	参加する劇場へ
	23 ^{〔土〕} -27 ^{〔水〕}	ノースホール	MONO『はなにら』	演劇

演劇 / THEATER

主催

市民寄席 第343回-344回



桂小梅



林家卯三郎



桂吉弥



笑福亭鶴志

永く愛され続ける市民寄席

1957年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。

第343回番組 | 桂小梅「平林」、林家卯三郎「片棒」、桂吉弥「狐芝居」、笑福亭鶴志「欲の熊鷹」
日時 | 第343回 11月27日〔火〕19:00開演
第344回 2019年1月27日〔日〕13:30開演 ★託児サービスあり

全席指定 第343回 | 前売1,800円／当日2,000円／ユース(25歳以下)1,500円(前売・当日とも)
第344回 | 前売2,300円／当日2,500円／ユース(25歳以下)1,500円(前売・当日とも)
〔第343回 | 発売中／第344回 | 11月27日(火)一般発売開始〕

会場

サウスホール

主催 | 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



片山九郎右衛門



観世鏡之丞



宝生欣哉

伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ第二弾は、“能”がテーマ

平成29年度から始まった伝統芸能の継承と創造を目指す新シリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」。2年目となる平成30年度は、“能”をテーマに、「鷹姫」を舞台芸術バージョンとして上演。上演後には、能楽師と専門家によるディスカッションも行います。

原作 | W.B. イエーツ 能本作者 | 横道萬里雄 曲節作者 | 観世寿夫 演出 | 観世鏡之丞
出演 | 鷹姫:片山九郎右衛門 老人:観世鏡之丞 空賦麟:宝生欣哉 ほか

作品紹介『鷹姫』／Takahime

「鷹姫」は、アイルランド出身でノーベル賞作家のW.B. イエーツが、能に触発されて書いた舞踊劇「鷹の井戸」(1916)が原作。それを横道萬里雄が新作能として改作・翻案し「鷹の泉」とし、さらに自由な翻案が施された新しいバージョン「鷹姫」として観世寿夫が1967年に初演。以来現代も上演されている、外国人作家が原作の能。

全席指定 1階席 | 一般5,000円／ユース(25歳以下) 4,000円
2階席 | 一般4,000円／ユース(25歳以下) 3,000円
〔10月14日(日)一般発売開始〕

企画製作 | ロームシアター京都 主催 | 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
共催 | 公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団 特別協賛 | 公益財団法人稲盛財団
平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業／beyond 2020プログラム認証事業

主催

能楽『鷹姫』

舞台芸術としての伝統芸能 Vol.2

日時

2019年
2月3日〔日〕
14:00開演

会場

サウスホール

能舞台は、京間三間四方(約6m×約6m)の本舞台に、斜めに橋掛りが連なるといのが定式である。この3×3という意識は能楽師には明確にあり、実際、本舞台には九分割した呼称(常座・脇正・目付・大しづな・しづな・しづな・ふえ・ざん・じ・うい・まゑ・わき・ざん・まゑ)がある。

三間四方については、建築史家の神代雄一郎に「九間論」(1969)という刺激的な論考があり、彼はそこで書院造や天守閣など様々な日本建築にあらわれる同じ寸法の正方形の空間を涉猟しているが、そのなかで能舞台の三間四方が人間一人を焦点化するのにちょうど良い大きさであると論じている。しかし、日本人の体型も大きく変化してくると、こうした能舞台の寸法も変わってくる余地はあるだろう。

本来、能楽は野外で上演するものであった。その舞台も、室町期には舞台後方の両脇に橋掛りが付いていたり、あるいは後方まっすぐに橋掛りが付く場合もあったし、舞台そのものも恒久的につくれるものではなく、その都度に拵えられる一回性に基づくものであった。現在のような能舞台の様式が定まったのは室町時代末期頃と言われており、現存最古の能舞台が16世紀末につくられたと言われる西本願寺の北能舞台である。そして、明治期において、屋根を持った能舞台が室内にあるという言わば入れ子構造のような能楽堂が成立した。

能楽とは、能舞台という建築様式と完全に一体となった芸能であり、能舞台でさえあればどこでも上演することができる。だが、一方で、各々の能楽作品は、様々な土地を舞台とし、その土地ゆかりの固有の物語、言って見れば、それぞれの土地の精霊を素材としている。今日、こうした実際の固有の場所と能楽作品の繋がりは、近代以前よりはるかに希薄になってきていると言えよう。

そうしたなかで、固有の場所と能楽の繋がりを再活性化させようと、特別な場所での演能、言わば、サイトスペシフィックな演能の企画に携わることが筆者自身ここのところ多い。たとえば、能楽の原点として奈良・談山神社を見つめ直そうと

する「談山能」(2011〜)や、京都・下鴨神社で能「賀茂」を上演した「札勸進能」(2015)——この時には最古の能舞台図「寛正五年弘河原勧進猿楽図」(1464)にちなみ舞台後方に橋掛りが付けられた。あるいは華道家・辻雄貴が進める「シャクジ能」では毎回特別な場所で特別な設えを作り上げている。

これらは能楽と土地の精霊を突き合わせる試みであり、また演能空間の祖型を模索する試みとも言えるだろう。こうした動きは、建築の分野において、地域性などの文脈に依存しない近代建築への反動として1980年代に建築史家ケネス・フランプトンが批判的地域主義を提唱したことと類比してみても良いのかもしれない。

では、こうした試みがあるなかで、再び劇場という屋内に戻るとき、どのような演能空間が展開されるのかが問われる。

「鷹姫」はアイルランドの詩人・劇作家W.B. イエーツが能のテキストに触発されて書いた「鷹の井戸」(1916)を逆輸入した新作能である。この作品は1967年の初演以来、新作能としては異例の再演頻度を誇る作品であり、常に能楽が新しい実験に挑戦するにあたって良きよすがであり続けてきたように思う。近年においても、筆者もドラマトゥルクとして参加した坂本龍一、野村萬斎、高谷史郎による「LIFE-WELL」(2013)や、梅若玄祥(現・実)がケルティック・コーラスと共演した「ケルティック能」(2017)、あるいは野村萬斎がここ数年盛んに行っている「鷹姫」新演出公演等が思い出される。また、来年、パリ・オペラ座では杉本博司による「鷹の井戸」公演があるという。

いま再び「鷹姫」をきっかけとして、どのような新しい演能空間が創出されるのか、大いに期待される。

原 瑠璃彦 はらるりひこ

1988年生。日本学術振興会特別研究員。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学。専門は日本の庭園、能・狂言。共著に『Promise Park』(Workroom Press、2017)。野村萬斎+坂本龍一+高谷史郎「LIFE-WELL」(2013)等でドラマトゥルクを担当。

来たるべき演能空間をめぐる

原 瑠璃彦

column

主催

『糸井版 榎州合邦辻』

レパートリーの創造

木ノ下歌舞伎

せっしゅうがっぱうがつじ

日時

2019年

2月10日〔日〕

2月11日〔月・祝〕

15:00開演（両日）

会場

サウスホール



「心中天の網島 —2017リクリエーション版—」 © Takuya Matsumi

古来より脈々と語り継がれてきた名曲、物語を、
“現代の異物”として観客へ引き放ち、わたしたちの
生／性／聖を更新する、新たな音楽劇への挑戦

未永く地域で上演されるレパートリー作品を劇場が生み出すべく、アーティストとタッグを組む「レパートリーの創造」プログラム。昨年10月に『心中天の網島—2017リクリエーション版—』を上演し、大きな反響を呼んだ木ノ下歌舞伎とのプロジェクト第二弾は、穂の国とよはし芸術劇場PLAT、KAAT神奈川芸術劇場との三館共同製作で挑みます。説経節「しんとく丸」や「愛護の若」を元にし、人形浄瑠璃、歌舞伎、文学、演劇と時代により形を変えながらも古来より脈々と語り継がれてきた名曲、物語を、木ノ下歌舞伎×糸井幸之介のタッグが、壮大なスケールをもった音楽劇として現代に紡ぎ直します。

作 | 菅専助、若竹笛躬 監修・補綴・上演台本 | 木ノ下裕一

上演台本・演出・音楽 | 糸井幸之介 (FUKAIPRODUCE羽衣) 音楽監修 | manzo 振付 | 北尾亘

出演 | 内田慈、田川隼嗣、土居志央梨、大石将弘、金子岳憲、伊東沙保、西田夏奈子、武谷公雄 ほか

木ノ下裕一／Yuichi Kinoshita

木ノ下歌舞伎 主宰

1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『娘道成寺』『黒塚』『東海道四谷怪談一通し上演』『心中天の網島』『義経千本桜一渡海屋・大物浦一』など。2015年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

糸井幸之介／Yukinosuke Itoi

劇作家・演出家・音楽家

1977年東京生まれ。劇作家・演出家・音楽家。2004年に女優の深井順子により旗揚げされたFUKAIPRODUCE羽衣の全作品で作・演出・音楽・美術を手掛ける。全編の7割ほどを演者が歌って踊る、芝居と音楽を融合した独自の作風を“妙一ジカル”と称し、唯一無二の詩的作品世界と、耳に残るオリジナル楽曲で高い評価を得ている。世田谷区芸術アワード“飛翔”2008年度舞台芸術部門受賞。FUKAIPRODUCE 羽衣第22回公演『瞬間光年』(2017年上演)にて第62回岸田國士戯曲賞最終候補。多摩美術大学講師。公益財団法人セゾン文化財団シニア・フェロー。

全席指定 一般3,500円／ユース(25歳以下) 2,000円／高校生以下1,000円
〔10月20日(土)一般発売開始〕 〈託児サービスあり〉

企画制作 | ロームシアター京都、木ノ下歌舞伎／一般社団法人樹来舎 製作 | ロームシアター京都 共同製作 | 穂の国とよはし芸術劇場PLAT、KAAT 神奈川芸術劇場 主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

「歌」によって
時代を変遷しながら
語り継がれてきた
物語なんです。——木ノ下

木ノ下 裕一

インタビュー

「レパートリーの創造」第二弾として、糸井幸之介（劇作家・演出家・音楽家）と再び協働し、『糸井版 榎州合邦辻』を上演する木ノ下歌舞伎。主宰の木ノ下裕一に、橋本裕介（ロームシアター京都プログラムディレクター）がインタビューを行いました。

インタビュー編集 | 高嶋慈

橋本 | 『榎州合邦辻』の魅力や重要なポイントについてお聞かせください。

木ノ下 | 糸井幸之介さんとのタッグが2年目ということで、昨年の『心中天の網島』を経て、次はどういう演目がいいかなと考え、『榎州合邦辻』に行き当たりました。理由はいくつかあります。まず、糸井さんに作品をつくってもらなら「歌」の要素は外せません。『榎州合邦辻』の起源は、「しんとく丸伝説」という民間の説話です。それが中世には、能の『弱法師』、説経節の『しんとく丸』になり、近世に入って『榎州合邦辻』という演目に結実しました。説経節は歌語り、能は「謡」、文楽は「浄瑠璃」、つまり「歌」によって時代を変遷しながら語り継がれてきた物語なんです。

また、糸井さんは、生と死の問題を、軽やかなテイストで深く描くのがうまいアーティストだと思っています。生と死の間には「性」があり、そこを往復しながら物語を紡いでいく。『榎州合邦辻』は一度死んだ者が再生する話であり、そこに主人公・玉手御前の、義理の息子への邪恋という要素が絡むので、その点でも糸井さんと相性が良いのではと思いました。

同時に、この物語は近代に入ってから、矮小化された作品でもあります。近代以前は、現実にはありえない奇跡譚、土着的な物語と認識されていましたが、近代以降の『榎州合邦辻』は、玉手御前が義理の息子の俊徳丸に恋をしたことが、本当の恋なのか、嘘だったのかという解釈に終始してしまいます。近代小説的な概念に沿って辻褄を合わせようすると、物語が非常に小さくなってしまふ。でも、そもそも辻褄が合わない話ですから。発想やイメージの飛躍の振れ幅の大きい物語が、近代に入ってから「玉手御前の恋は本当か」の一点に終始されることは、損失だと思います。

もちろん演劇の場合、整合性を取りつつリアリティを求めることは大事ですが、同時にやはり「歌」の存在は大きくて、物語の中に「歌」が入ってくると非常に飛躍できる。台詞や演技で語られることと、「歌」で語られることは全然違う情報ですから。なので、もっと想像力豊かな『榎州合邦辻』ができればいいなと思っています。

橋本 | 近代になって人間ドラマに矮小化されたと話されましたが、近代の演劇のあり方についてきちんと検証する必要を最近感じています。近代以



はねるつみき『昨日を0とした場合の明後日』 撮影 | 松田ミネタカ

共催

第4回

全国学生演劇祭

日程

2019年

2月20日〔水〕

-24日〔日〕予定

会場

ノースホール

全国学生演劇祭は、全国各地の演劇祭を勝ち抜いてきた学生劇団が京都に集結し、日本一を競う演劇の祭典です。ロームシアター京都にまだ見ぬ才能が集結する貴重な機会を、お見逃しなく！

主催 | 全国学生演劇祭実行委員会

共催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団） 後援 | 京都市（申請予定）

共催

MONO『はなにら』



2018年上演『隣の芝生も。』 撮影 | 谷古宇正彦

結成30周年を迎える劇団が描くのは 血縁ではない、それでも家族の物語

1989年に劇団を結成し、京都を拠点に活動が続けてきたMONOによる10年ぶりの京都公演が実現。笑いのなかに、さりげなく現代社会の問題を描き出す会話劇が人気の劇団の新作コメディにご期待ください。

全席指定

一般4,000円／U-25 2,000円／ペアチケット7,200円

〔2019年1月13日（日）一般発売開始〕

主催 |

MONO 共催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

後援 | 京都市（申請予定）

日程

2019年

3月23日〔土〕

-27日〔水〕

会場

ノースホール

現代人にも理解できる設定をつくるのではない、ぶっ飛び方ができればと思っています。——木ノ下

前は人間の一生よりもっと幅広い時間感覚を意識して生きていたけれど、近代以降は人間中心の尺度になり、空間的にも時間的にもすごく狭まって、それが現代社会の様々な困難と関わっている気がしています。そういう時に、木ノ下歌舞伎のように近代以前のものを扱う演劇は非常に重要だと思います。

木ノ下 | ありがとうございます。浄瑠璃の『摂州合邦辻』は、菅専助（すがせんすけ）という、近松門左衛門より2世代ほど後の人が書いた作品です。近松は、『心中天の網島』のように、心中事件を起こす一組の男女と、それをとりまく社会や宇宙を大きく描いた作家でした。しかし、菅専助の時代になると、近松の作品は、当時の人々にとっては、もはや“古典”、難解なものになってしまいます。そこで、近松作品を人間ドラマやメロドラマに書き換えて上演することが流行りました。それが、すごくウケたのですが、別な見方をすれば観客の知的水準が落ちたということなんです。当時の観客にとって『摂州合邦辻』がどういうものだったかという、チマチマした人間ドラマとかホームドラマばかりのところに、急に前時代の土着的な物語をもってきて、しかも感動できることが大きな発見でした。時代状況は違うので単純化はできませんが、現代にも重なる部分はあるので、そういう『摂州合邦辻』にしたいと思います。

橋本 | 「レパトリーの創造」への参加は2年目になりますが、昨年の『心中天の網島』の感触はどうでしたか？ 木ノ下歌舞伎としてリクリエーションに取り組んだ意義、また糸井さんとタッグを組んだ経験がどう今回に生きてくるのかも含めてお聞かせください。

木ノ下 | とても良い経験になりました。一度つくった作品のリクリエーションという行為が、新作をつくる前にできて良かったです。糸井さんとは、初演からリクリエーション版の間にお互い何が変わり、何が変わってないかを確認できました。相手が何をしようとしているのか、重なる部分と全く違う志向があることは、一度つくった作品が土台にあると、とても具体的に話せます。

手探りで新作をつくる時とは違い、お互いへの理解の速さがありました。しかも、劇場と一緒につくるといことで、色んな人の視点が入ってきたし、木ノ下歌舞伎としても他に4都市をまわるツアーを組んだので、演劇をよく見る方からそうじゃない方まで、色んなタイプのお客さんが一つの作品を見てくださって、反応も感想も全然違って面白かったです。普段、現代演劇になじみのないお客さんも批評家も同時に相手にしないといけない、そのためには作品の強度というか、巻き込むフックの数を増やさないとけない。それにチャレンジしてこそその「レパトリーの創造」だと肝に命じられたのは、初年度の一歩の収穫だったと思います。

また、香川公演は、上演場所が四国学院大学だったので、学生が手伝ってくれたり、若い人が多く見てくれて、未来という意味で希望を感じました。不特定多数のお客さん一人一人を相手にする仕事なんだと改めて考えました。その心意気で今回行こうと思います。

橋本 | 『摂州合邦辻』でやってみたい新たなチャレンジは？

木ノ下 | 今、木ノ下歌舞伎への評価として、歌舞伎では見えないドラマが見える、歌舞伎だと意味が分からなかった登場人物や物語の細部がともリアルに感じられる、背景が掘り起こされている、つまり「分かる」ということがあると思うんです。でも『摂州合邦辻』は、「分かった」って思わせたら「負け」だという気がしていて。「分かる」には「理屈で分かる」も含まれているでしょう。でも『摂州合邦辻』は、ストーリーの辻褄は合っていないけど、体感としてすごく分かるというところに行きたいと思っています。だから、細かい歴史考証やバックボーンを補填して現代人にも理解できる設定をつくるのではない、ぶっ飛び方ができればと思っています。大きな挑戦ですが、そのためには台本が一番重要な作業です。『摂州合邦辻』は文楽の作品ですが、背景には能など時代ごとの色々な要素があるので、それらを一回横に並べて、コラージュしていく。全体の骨子は『摂州合邦辻』ですが、細部には様々な時代の俊徳丸の物語が入ってくる、それが一つの大きな美しい織物になってほしいと思います。古典に興味があってもなくても楽しめる作品になると思いますので、ぜひご来場をお待ちしております。

舞踊 / DANCE

主催

『高丘親王航海記』

笠井 叡 迷宮ダンス公演

日時

2019年
1月11日[金]
19:00開演
12日[土]
15:00開演

会場

サウスホール



笠井 叡 © 細江英公



黒田育世 © Daisuke Miura



近藤良平 © HARU



寺田みさこ

澁澤龍彦の文学作品を笠井叡が舞踊作品として創作

黒田育世、近藤良平、寺田みさこらコンテンポラリーダンサーを迎えての世界初演

文学作品「高丘親王航海記」（作 | 澁澤龍彦）を、振付家・笠井叡が舞踊作品として創作し、ロームシアター京都で初演する。舞踏の創生期から活躍する笠井叡が、盟友の澁澤龍彦の原作をもって、黒田育世、近藤良平、寺田みさこといった実力、人気共にコンテンポラリーダンスを代表するダンサーを迎えての大作に挑む。

原作 | 澁澤龍彦 演出・振付・台本 | 笠井叡

出演 | 笠井叡、黒田育世、近藤良平、笠井瑞文、上村なおか、岡本優、篠原くらら、BATIK ダンサー、天使館オイリュトミスト、寺田みさこ（京都公演のみ）

意匠・舞台美術・映像・衣裳 | 榎本了壺

澁澤龍彦 / Tatsuhiko Shibusawa

作家、翻訳家

1928～1987年。東京生まれ。本名龍雄。東京大学文学部フランス文学科卒業後、マルキ・ド・サドやジャン・コクトーらの著作を翻訳するかわら、美術評論や中世の悪魔学などのエッセイ、独自の幻想小説など、幅広いジャンルで旺盛な執筆活動を展開した。

笠井叡 / Akira Kasai

舞踏家

1943年生まれ。1960年代に大野一雄、土方巽に会い、舞踏家として活動始める。1971年に天使館を設立、多くの舞踏家を育成する。1979年から1985年までドイツ留学し、ルドルフ・シュタイナーの人智学、オイリュトミーを研究。帰国後、1994年に『セラフィータ』で舞台に復帰。2001年初演『花粉革命』は代表作として世界各都市で上演を果たす。ソロ作品のほか、ジャンルを超えたアーティストとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。

全席指定 一般4,000円／ユース（25歳以下）3,000円
[10月13日(土) 一般発売開始] 〈託児サービスあり(12日のみ)〉

製作 | 一般社団法人天使館 共同製作 | ロームシアター京都 主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市 助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）／独立行政法人日本芸術文化振興会／公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

澁澤さんが夢によく出てくるんです。
これが続いている間に
今やろうと思いました。

—— 笠井

『高丘親王航海記』の舞踊作品化に挑む笠井叡に、
橋本裕介（ロームシアター京都プログラムディレクター）がインタビューを行いました。

インタビュー編集 | 高嶋慈

橋本 | まず、澁澤龍彦さんとの出会いや関わりについて、また、『高丘親王航海記』を舞踊化しようと思われた経緯についてお聞かせください。

笠井 | 澁澤さんとの出会いは、土方巽さんの『バラ色ダンス —— A LA MAISON DE M. CIVEÇAWA（澁澤さんの家の方へ）』（1965）という作品に出演したことです。以前からお名前は知っていて、マルキ・ド・サドやジャン・コクトーなど、ヨーロッパの異端文学を翻訳されていました。私はあまり文学作品を読む方ではないんです。本に興味があれば、踊りなんてやってないじゃないですか、踊りって体に興味があるから。澁澤さんに興味を持ったのは、本よりも、存在が醸し出す佇まいです。翌年の1966年、私の初めての自主公演を見てくださり、私がドイツに留学する1979年まで、10数年間欠かさず見ていただきました。澁澤さんの仕事の中心はヨーロッパの異端的な思想や幻想文学でしたが、自身の小説を書き始めると、日本人をテーマに扱うものが多かったんです。その落差が私にとっては面白くて。私がドイツから帰国したのが1985年で、『高丘親王航海記』が出たのが1987年で、澁澤さんが亡くなられた年です。いつか彼の文学作品をやりたいと思っていましたが、なかなかきっかけがなく、やっと今やる時期だという気持ちになりました。

橋本 | きっかけになる出来事があったのですか？

笠井 | 澁澤さんが夢によく出てくるんです。「自動車の免許を取ったから乗せてあげよう」って車で走ったり、「こんな新しい洋服を買ったんだ」とか。生きているのか死んでいるのか曖昧な感じが長いので、これが続いている間に今やろうと思いました。

あと、今回の美術を担当する榎本了壺さんが、2016年に銀座のギャラリーで開催した個展を見たこともきっかけです。驚くべきことに、榎本さんは『高丘親王航海記』の物語を全部手書きで写したんです。書き写すと、ただ読むのとは違う部分が見えてきて、物語を構成する7つのシーンごとに絵も描き、イメージ豊かで面白いんです。それを見た時に、この人とやれば新しいものができるのではと思いました。

橋本 | 榎本さんのお仕事は初めてですか？

笠井 | はい。榎本さんは、寺山修司の初期作品の美術を担当し、アートディレクターとして主にデザインの分野で活躍されてきた方です。榎本さんに「京劇風オペラにしませんか」と意見をいただき、台本を書きました。台本と配役を決めて大掛かりな舞台をつくるのは初めてです。私はどちらかと言うと、ソロで踊る方が自分に合っていて、たくさん出演者を使って構成するのはそれほど得意ではないんです。

精神のアナーキストというのは舞踏、 一切を自分の中から取り出すということなんです。——笠井

橋本 | そうなんですか？ 最近はグループの作品も手がけられていますよね。

笠井 | 確かにそうですが、自分自身はソロダンサーだと思っています。ソロダンスは即興的に動けるけど、たくさん人を出す構成や振付が必要になる。その面白さはあるのでしょうか。たくさん出演者を使って構成する大きな作品のつくり方を、私は「作品主義」と呼んでいます。きちんと構成された作品の上演を社会が望んでいるのだろうか、自分の中で色々考えます。一方、ソロで踊る場合、そういう社会的なことはあまり考えません。自分がやりたいか、やりたくないかだけでしょう。やりたいなら明日でもできる。そういう作品のつくり方を「ダンサー主義」と呼んでいます。自分の体しかない、体を作品にするというのが私の言う「ダンサー主義」です。作品をつくるというより、今の時代に見合う自分の体をつくるのが社会に参加するという感覚です。

橋本 | これまでの作品でも、舞台上で言葉を発したり、テキストが関係していたり、笠井さんの舞台は言葉との結びつきが強いと思います。踊りの中で言葉を話すのは、どういうアイデアや衝動で出てくるのですか？

笠井 | 自分にとって、言葉がなければダンスができないのは確かです。でも、ある言葉と出会った時の反応を言葉で返すのか、体で返すのか、その接点はすごく曖昧です。未消化のまま舞台で出すより、言葉で直接出した方が自分の考えている身体的なものがより表出できる場合があります。それで『カラダという書物』という本を書いたり。一方、しゃべらないでいると、なぜ踊りだけで表現しようとするのかという問いが逆に出てくるので、むしろ言葉に出すことで新しい動きが生み出される場合もあります。

橋本 | 『高丘親王航海記』に話を戻すと、共演するダンサーについてお話を伺えれば。

笠井 | 黒田育世さんとは何度も共演し、お互いに信頼しています。近藤良平さんは、コンドルズをつくる前に出てもらったことがあります。笠井瑞

丈は私の3男です。近藤さんと瑞丈は、正反対だけど似ている部分もあるので、2人は対になる役どころです。群舞シーンでは、黒田さんのカンパニー、BATIKのメンバー6人が踊り、天人や怪しげな人間の群舞は、天使館のオイリュトミストたちが踊ります。また、篠原くらさんというバレエの方には、去年私が振付けた『白鳥の湖』でオデットをやってもらいました。今回はパトリヤ・パタタ姫という、高丘親王を虎に食わせる悪女の役です。

橋本 | 去年は、代表作の一つ『花粉革命』を瑞丈さんに渡され、今回も若い方と一緒に踊られます。これまで笠井さんがつくってこられた舞踏や考え方を改めてお聞かせいただけますか？

笠井 | いわゆる「コンテンポラリーダンス」と呼ばれる世界においても、私が考える舞踏的な側面はかなりあります。白塗りで坊主頭というスタイルが舞踏だと考えられがちですが、例えば大野一雄さんは白塗りに坊主頭ではなくて、好きなように即興で踊ってらっしゃる。そういうものも舞踏という一つの括りの中で考えると、舞踏はものすごく広いんです。「踊り」という言葉が広いのとは別の意味で。その広さを大切にしていくことが私にとっての舞踏です。

私の考えでは、土方巽さんの舞踏をつくり上げた要素は3つあります。1つは澁澤さんの持つヨーロッパの異端性で、それが『高丘親王航海記』に結集しています。キリスト教という正統に対する異端を生んだ源流は、実はバラモンとかウパニシャッドと言われる仏教以前の古いアジアの思想にあると澁澤さんは考えていました。2つめは三島由紀夫さんの影響です。文学の影響ではなく、「男性の身体性に命をかけられればいい、道徳なんていらない」という精神です。土方さんは、道徳に代わるものを舞台で方向づけようとした。3つめは、ほとんど言われていませんが、日本の明治・大正期の左翼運動、マルキストの人たちです。土方さんは左翼の極に行き、それも超えてアナーキストになった。私にとっても、政治的な意味でのアナーキストではなくて、精神のアナーキストというのは舞踏、つまり決め事があってやるのではなくて、一切を自分の中から取り出すということなんです。

主催

平成30年度 新国立劇場
高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演
『魔笛』



La Flûte enchantée (Die Zauberflöte) by W. A. Mozart © Elisabeth Carecchio - Festival d'Aix-en-Provence 2009

世界中で広く愛されている名作オペラ『魔笛』。王子が捕らわれの姫を救い出すという冒険ファンタジーで、モーツァルトの宝石のような美しい音楽とファンタスティックな物語が魅力です。今回演出するのは、現代アートの巨匠で、オペラ演出の分野でも世界を席巻しているウィリアム・ケントリッジのプロダクション。素描とアニメーションを用いた美しく神秘的な舞台は、世界中で大人気を博しています。モーツァルトの音楽とケントリッジの魔法が織りなす、心躍る『魔笛』にどうぞご期待ください。

演目 | モーツァルト作曲「魔笛」(全2幕)
指揮 | 園田隆一郎
演出 | ウィリアム・ケントリッジ
合唱 | 新国立劇場合唱団 管弦楽 | 京都市交響楽団

ザラストロ：長谷川顯 タミーノ：鈴木准 弁者・武士II：成田眞
僧侶・武士I：秋谷直之 夜の女王：安井陽子 バミーナ：林正子
侍女I：増田のり子 侍女II：小泉詠子 侍女III：山下牧子
童子I：前川依子 童子II：野田千恵子 童子III：花房英里子
パパゲーナ：九嶋香奈枝 パパゲーノ：吉川健一 モノスタス：升島唯博

全席指定 高校生以下2,160円／一般（大学生以上）4,320円
※29日[月]の公演のみ残席があるため、一般にも事前に販売しています

主催 | 京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場
助成 | 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社
平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

日時

10月29日[月]

31日[水]

13:00開演(両日)

会場

メインホール

column

ケントリッジ演出の『魔笛』を視る 吉岡 洋

ドロージングに残された時を視る

ウィリアム・ケントリッジは、1955年に生まれた南アフリカの美術家である。1990年代以降、その作品は国際的な評価を得て世界各地で展示され、日本においても2001年の「横浜トリエンナーレ」や、2014～15年の「PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭」そ

の他を通して紹介されてきた。

美術家とはいっても、美術大学で教育を受けたわけではない。政治学とアフリカ研究で大学を卒業した後、別な機関で芸術の学位もとったが、1980年代初頭にはパリに赴いてマイムと演劇の勉強をし、1991年まではヨハネスブルクで演出や俳優の仕事をしてきた。だが結局、自分には俳優の才能はなく、自分に

ベッリーニによる「ロミオとジュリエット」のオペラ版。
13世紀でのイタリアでの貴族間の争いごとをそのまま時代考証するのではなく、1920年代のシカゴに設定した新演出。



総監督・演出 | ミッシェル・ワッセルマン 指揮 | 森香織
管弦楽 | 京都オペラ管弦楽団 (特別編成) 合唱 | 京都オペラ合唱団 (特別編成)
出演 | ジュリエッタ (ジュリエット): 黒田恵美、ロメオ (ロミオ): 森季子、
テバルド: 竹内直紀、カッペリオ: 東平間、ロレンツォ: 迎肇聡

全席指定 S席8,000円/A席6,000円/B席4,000円 [発売中]

主催 | 京都オペラ協会
共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 後援 | 京都市

主催

「バレエ×オーケストラ」
〜ニューイヤー・ガラ〜

日時
2019年
1月6日 [日]
15:00開演
会場
メインホール

共催

『カプレーティ家とモンテツキ家』
〜ロミオとジュリエット〜
京都オペラ協会定期公演

日時
12月9日 [日]
14:00開演

会場
サウスホール



京都市交響楽団 ©伊藤菜々子



首藤康之 ©阿部稔哉



中村恩恵 ©大河内慎

オーケストラとバレエダンサーの競演によるオリジナルステージ!

中村恩恵、首藤康之、世界で活躍するダンサーたちと京都市交響楽団によって繰り広げられる華やかなバレエ×オーケストラのオリジナルステージ。クラシックからコンテンポラリーまで、バレエの魅力とオーケストラのサウンドを堪能できる心躍るニューイヤー・ガラ!

出演 | 首藤康之、中村恩恵、イ・ドンタク、カン・ミソン、林田翔平、
渡辺理恵、全京都洋舞協議会 ほか
演出・振付 | 中村恩恵 指揮 | 下野竜也 (京都市交響楽団常任首席客演指揮者)
管弦楽 | 京都市交響楽団
曲目 | チャイコフスキー: 眠れる森の美女より、チャイコフスキー: くるみ割り人形より、
プロコフィエフ: シンデレラより、シベリウス: 悲しきワルツ、
シベリウス: トウオネラの白鳥、フォーレ: パヴァーヌ、ベルリオーズ: 幻想交響曲 第2楽章 舞踏会、
マーラー: 交響曲第5番 アダージェット、マスネ: タイスの瞑想曲、J.シュトラウスII: 美しく青きドナウ

首藤康之 / Yasuyuki Shuto
舞踊家

15歳で東京バレエ団に入団、19歳で主役デビュー。数々の古典作品から、モリス・ベジャール、イリ・キリアン、ジョン・ノンマイヤー、マシュー・ボーンなど、世界的現代振付家の作品に数多く主演。2004年の退団後も、シディ・ラルビ・シェルカウイ、中村恩恵、串田和美、白井晃、長塚圭史など、国内外の振付家、演出家の作品に出演するNRW国際ダンスフェスティバルなどの海外公演にも多数出演。近年は、映画、TVドラマに出演するなど、表現の場を拡げている。第62回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

全席指定 S席5,500円/A席4,500円/B席3,500円/C席3,000円
ユース (25歳以下) S席・A席とも500円引き [発売中] 〈託児サービスあり〉

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 協賛 | ローム株式会社
平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

やデイヴィッド・ホックニーの例もある。けれどもケントリッジの場合、たんに舞台美術や衣装のデザインを担当するということをはるかに越えて、『魔笛』という作品の解釈そのものを大きく刷新するものとなっており、それが何をにおいても注目すべき点である。

『魔笛』が初演されたのは1791年、モーツァルトが亡くなる直前である。18世紀末のヨーロッパ、時はまさに市民革命と啓蒙思想の時代である。「啓蒙 (Enlightenment, Lumière)」とは封建的・因習的な社会の「闇」を知識の「光」によって駆逐することを意味していた。『魔笛』の物語もまた、その謎めいた細部はともかく全体としては、闇に対する光の勝利、知識による暴力の克服と人類の進歩という、啓蒙主義の文脈を手掛かりとして理解することができる。

けれど私たちは、啓蒙の理想に導かれたフランス革命が、同時に恐怖政治 (テロル) を生み出したことも知っている。それだけではない。その後今に至る200年間、自由と啓蒙を目指して行われた多くの政治的革命は、やがては抑圧と暴力へと転化していった。また地球上のより「遅れた」文明に知識の光をもたらし人類を解放するという理想 (植民地主義) が、その理想とは真逆の、差別と搾取と暴力へと変質してゆく過程も、私たちはイヤと言うほど見てきた。こうした歴史から得られた最も重要なポイントは何か? それは、啓蒙や進歩という高邁な理想が支配欲や破壊衝動のような「悪」によってたまたま道を踏み誤まれたのではなく、実は啓蒙や進歩という理想それ自体の中に、支配や暴力への傾向がビルトインされていたのではないか? という問いである。

モーツァルトはもちろん、ナポレオン戦争も、19世紀の植民地闘争も、ナチスのガス室も、スターリン政権下のロシアも、そして現在の「テロとの闘い」も知らない。にもかかわらず彼は、「啓蒙」という理想、つまり闇に対する光の勝利という物語それ自体が、深い矛盾と両義性に貫かれていることを直観しているようであり、そのことが『魔笛』という作品の大きなポテンシャルとなっている。ケントリッジの演出は、作品を啓蒙と植民地主義という文脈に置くことによってこのポテンシャルを顕在化させ、タミーノの運命やザラストロの存在の意味を、神話的な夢物語からアクチュアルな世界史の中に連れてくる試みであると言える。

とにかく、『魔笛』を観ることがオペラのファンに限らず、ワクワクするスリリングな体験となるだろうと期待している。日本における公演は本当に喜ばしく、楽しみである。

吉岡 洋 よしおか ひろし

京都大学こころの未来研究センター特定教授。専門は美学・芸術学。主な著書に、『情報と生命』(新曜社、1993)、『〈思想〉の現在形』(講談社、1997) 等。京都ビエンナーレ (2003)、岐阜おおがきビエンナーレ (2006) 総合ディレクター。美学会会長。

できるのはドローイングなのだと悟ったそうである。

美術家にとってドローイングは、油彩その他の大作を準備する下描きのなものと位置付けられる場合も少なくない。けれどもケントリッジの場合はそうではない。彼にとってそれは、その本来の意味において、中心的な表現形式となっている。本来の意味というのは、ドローイングには作者の手 (身体) の運動がハッキリ感じられるということである。またドローイングには、最終的に選ばれたもの以外の描線も残っていることが多い。いわば私たちはドローイングの中に、単なる形ではなく、それに至るまでに作者が経験した時間をも、同時に視ているのである。ケントリッジの名を世界的に有名にしたきっかけのひとつは、彼が1989年以降制作してきた短編アニメーションである。「アニメーション」と聞くと、セル画 (最近ではCG) や、粘土などをコマ撮りした作品を思い浮かべるかもしれないが、ケントリッジの場合、それは紙に木炭で描くドローイングを用いて制作される。それもフレーム毎に違う絵を描くのではなく、同じ紙の上で一部を少しずつ消しては書き加えてゆくプロセスをコマ撮りしてゆく方法で製作される。紙に木炭だから、当然以前の描線は完全に消えることはなく、うっすらと残っており、それが独特の効果を生み出す。(ケントリッジの動画作品は現在YouTube等のネット上にあるので、この技法がどんな印象をもたらすかは簡単に確認できる。今は同じ技法を用いるアーティストは増えたので、どこかで見たと思う人もいるかもしれない。)

ケントリッジのアニメーションはある種のストーリーを持つお話であるが、その内容は南アフリカの歴史に関わるものであり、アパルトヘイト (人種隔離政策) 時代の南アフリカ社会を白人として生きた、自分自身の経験から産み出されたものである。人種差別や虐殺を批判・告発するものではあるが、単純なメッセージではなく、複雑で内省的なイメージが重層する物語であり、そのためにドローイングによるアニメーションという技法が極めて効果的に作用している。作品は南アフリカという特定の国の歴史にとどまらず、植民地支配をめぐる普遍的な物語になっており、だからこそ世界的に高く評価されているのだと思う。

光の勝利の物語に宿る矛盾を視る

さてこのケントリッジが1998年、ブリュッセルのベルギー王立歌劇場 (モネ劇場) から、モーツァルトの『魔笛』の演出を委託され、2005年に初演された。『魔笛』はこれまで、音楽ファンに限らず美術家たちをも魅了してきたオペラであり、美術家がその舞台に関わるのも、けっして初めてのことでない。グスタフ・マーラーの未亡人アルマとの恋愛でも知られるオーストリアの画家オスカー・ココシュカは、1954年ザルツブルグでの『魔笛』公演のためにその舞台や衣装をデザインしている。他にも、マルク・シャガール

主催

京都国際 舞台芸術祭2018

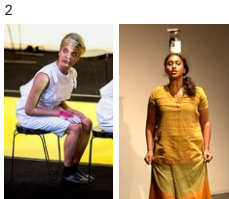
日程

10月6日〔土〕
—28日〔日〕

会場

サウスホール
ノースホール ほか

KYOTO
EXPERIMENT
2018



2010年より京都市内の劇場を中心に、世界各地の先鋭的な舞台芸術を紹介してきた芸術祭。国内外から多様で先鋭的なアーティストを迎え、演劇やダンスだけでなく、美術や音楽など従来のジャンルを越境し、いま注目すべき多様な表現が京都に集います。9回目を迎える今回は、女性アーティストおよび女性性をアイデンティティとするアーティスト／カンパニーにフォーカスを当てた全12組の作品を紹介します。

ロームシアター京都で開催するプログラム

1 | ジョン・グムヒョン
『リハビリ トレーニング』
[パフォーマンス／韓国、ソウル]
10月6日〔土〕～8日〔月・祝〕
ノースホール

2 | ジゼル・ヴィエンヌ／DACM
『CROWD』
[ダンス／フランス、ストラスブール]
10月6日〔土〕・7日〔日〕
サウスホール

3 | セシリア・ベンゴレア&
フランソワ・シェニョー
『DUB LOVE』
[ダンス／フランス、パリ]
10月18日〔木〕～20日〔土〕
ノースホール

4 | マレーネ・モンテイロ・
フレイタス『バックスの信女
—浄化へのプレリュード』
[ダンス／ポルトガル、リスボン]
10月20日〔土〕・21日〔日〕
サウスホール

5 | 手塚夏子／Floating Bottle
Floating Bottle Project vol.2
『Dive into the point 点にダイブする』
[ダンス／ドイツ、ベルリン・日本、福岡]
10月26日〔金〕～28日〔日〕
ノースホール

1 リハビリトレーニング ©Mingu Jeong
2 CROWD ©Estelle Hanania
3 DUBLOVE ©Laurent Philippe/
Divergences
4 バックスの信女 ©Filipe Ferreira
5 Dive in to the point ©STspot

ほか、京都芸術センターや京都芸術劇場 春秋座等でのプログラムもあります。詳細は、WEBサイト (<http://kyoto-ex.jp>) をご覧ください。

主催 | 京都国際舞台芸術祭実行委員会 [京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、
京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター]

共催

若者のエネルギーが表出されるような新たな文化発信事業創造イベント。ステージ、ブースを中心に、パフォーマンス・手づくり市・アート作品の展示等、若者が日頃感じていることを様々な形で発信する1日限りのイベントです。



「ユスカル!」
若者文化市

日時

11月4日〔日〕
11:00開演

会場

ノースホール
ローム・スクエア

※雨天の場合、ローム・スクエアでの催しは、
全てノースホールに変更になります

主催 | 京都市、公益財団法人京都市ユースサービス協会
共催 | 京都洛北ロータリークラブ
ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

主催

小澤征爾音楽塾 オペラ・プロジェクト XVII



©Shintaro Shiratori



2017年公演より ©大窪道治

世界的な指揮者である小澤征爾が、自らの音楽経験を後進の若手音楽家に伝えることを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクトによるオペラ公演です。日本ほかアジア諸国でのオーディションで選ばれる若手音楽家たちで結成するオーケストラと、一流の出演者・制作陣によって、高水準のオペラを制作します。また、一般向けの公演だけでなく、京都市内の小学生を対象にした、「子どものためのオペラ」公演も開催します。

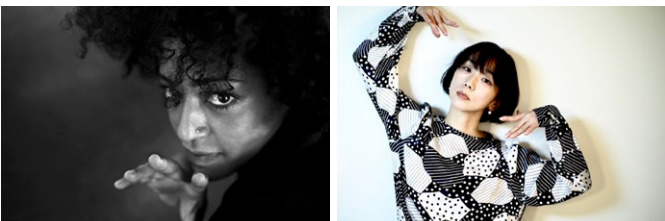
演目 | ビゼー作曲：歌劇「カルメン」
音楽監督 | 小澤征爾 演出 | ディヴィッド・ニース
管弦楽 | 小澤征爾音楽塾オーケストラ
合唱 | 小澤征爾音楽塾合唱団 児童合唱 | 京都市少年合唱団 ほか

子どものためのオペラ

日時 | 2019年3月12日〔火〕 会場 | メインホール
演目 | ビゼー作曲：歌劇「カルメン」より (抜粋)
※京都の小学生を対象にした招待公演 (一般販売なし／受付終了)

主催 | 小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン、京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 企画・制作 | ヴェローザ・ジャパン
共催 | 公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社
平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業 (子どものためのオペラ)

総合 / MULTIDISCIPLINE



©Sonia Jade

「ニューイ・ブランシュ(白夜祭)」は、パリ市が毎秋行う一夜限りの現代アートの祭典です。京都市内のあちこちで現代アートをお楽しみいただけます。ローム・スクエアでは、2人の才能ある日仏女性ダンサー、康本雅子とナッシュが30名の参加者とともに創作したダンス作品を上演します。観客のみなさまを、アートでポジティブな世界にご招待します。

振付・構成・出演 | ナッシュ/アンヌ＝マリ・ヴァン (振付家・ダンサー)、
康本雅子 (振付家・ダンサー) 出演 | ダンスワークショップ参加者

全席自由 入場無料 (予約不要)

主催 | 京都市、アンスティチュ・フランセ関西
共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、ヴィラ九条山

共催

ニューイ・ブランシュKYOTO 2018
ダンスショーイング
「kankoroboo」

日時

10月5日〔金〕
①18:45—②19:45—③20:45—

※上演時間約20分間

会場

ローム・スクエア

※雨天時は敷地内の別場所で開催

主催

U35創造支援プログラム “KIPPU”

ロームシアター京都×京都芸術センター



ブルーエゴナク「訪れないヒのために」(2017年)



安住の地「生成」(2017年)



akakilike「家族写真」(2018年)

次代を担う若手アーティストが京都から羽ばたく！ 新たな創造支援プログラムが始動。

ロームシアター京都では、京都芸術センターと協働し、若手アーティストの発掘と育成を目的とした新たな創造支援プログラムを行っています。
初年度となる今回は、今後の活躍が期待される3組を選出。若いアーティストが、いま何を考え、どのような表現に挑むのか、ぜひご注目ください。

全席自由 一般3,000円／ユース(25歳以下) 2,500円／高校生以下1,000円
[全演目共通] ※一般とユースは当日500円増 ※チケット発売開始日は劇団によって異なります。

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、
京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市
※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催 | 参加団体、共催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市で開催します。

①ブルーエゴナク(北九州)『sad』

作・演出 | 穴迫信一

プロフィール | 北九州を拠点に、国や時代を超えて通用する新しい演劇作品の創造と上演を趣旨として活動。ビート感を意識した音楽性の高い作風が特徴。商店街、モノレール車内など、多彩な場所で演劇作品を制作。

〈稽古期間(非公開) : 2018年11月8日[木]～12月9日[日]〉 [10月12日(金)一般発売開始]

日時

12月14日[金]

19:30開演

15日[土]

15:00/19:00開演

16日[日]

15:00開演

②安住の地(京都)『タイトル未定』

作・演出 | 岡本昌也／私道かび

プロフィール | 2016年7月に結成。旗揚げ公演『湊谷メトロポリス化計画』(アトリエ劇研)、第二回公演『来世のご縁ということで』(人間座スタジオ)を上演。メンバー全員が90年代生まれであることを活かし、演劇作品を中心に同時代性のある芸術作品を創作することを目指す。また、演劇のみならず、メンバーが各自で様々なジャンルの芸術作品を発表することが特徴。

〈稽古期間(非公開) : 2018年10月14日[日]～2019年1月13日[日]〉 [11月18日(日)一般発売開始]

日程

2019年

1月17日[木]

～20日[日]

③akakilike(京都)『はじめまして こんにちは、今私は誰ですか?』

作・演出 | 倉田翠

プロフィール | akakilike(アカキライク)は、テクニカルスタッフと倉田翠のみで構成され、主に舞台作品を作る。スタッフと出演者が常に対等であること、それぞれが確立して作品のためにやるべきことをするために集まった団体である。akakilikeはダンサー、役者は募集しておらず、作品によって、その都度出演者を決定している。

〈稽古期間(非公開) : 2019年1月14日[月・祝]～2月12日[火]〉 [12月22日(土)一般発売開始]

日程

2019年

2月15日[金]

16日[土]

参加する劇場へ

主催

ロームシアター京都× 京都市文化会館5館連携事業 地域の課題を考える プラットフォーム CIRCULATION KYOTO 劇場編

日程

12月1日[土]

～2019年3月24日[日]

会場

京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター
京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館

伏見

中野成樹+フランケンズ『マザー・マザー・マザー』

演劇



中野成樹

不条理演劇の上演を通して切り結ぶ、 この街と「その街」のいま

別役実が約40年前に書いた戯曲を引っさげて、ナカフラが京都初登場。「パパとその街」と名乗る集団の形成と崩壊をめぐる物語は、「街」とは何か?「集団」とは何か?を問いかける。

日時

12月1日[土]

18:00開演

2日[日]

15:00開演

会場

京都市呉竹文化センター
ホール

作 | 別役実 演出 | 中野成樹 ドラマトゥルク | 長島確

出演 | 竹田英司、田中佑弥、鈴鹿通儀、福田毅、洪雄大、斎藤淳子、
北川麗、佐々木愛 ほか 地域ドラマトゥルク | 弓井茉奈、吉水佑奈

西京

村川拓也『タイトル未定』

演劇



村川拓也

気鋭のドキュメンタリー作家が描く、 ピアノと劇場にまつわる一代記

村川がリサーチの過程で注目したのは、文化会館で数多く開催される「ピアノ発表会」。そこに耳を澄まし目を凝らした先に聴こえてくる小さな物語。人生と音楽が交わる「劇場」で、わたしたちが目撃するものとは。

日時

12月15日[土]

18:00開演

16日[日]

15:00開演

会場

京都市西文化会館ウエスティ
ホール

構成・演出 | 村川拓也 ドラマトゥルク | 林立騎

地域ドラマトゥルク | 杉本奈月、田中愛美

山科 相模友士郎『LOVE SONGS』



相模友士郎

構成・演出 | 相模友士郎 ドラマトゥルク | 細馬宏通 (滋賀県立大学教授)
地域ドラマトゥルク | 上原由佳、藤沢重徳、皆川由起

京都市東部文化会館
ホール

演劇

日時
2019年
1月12日[土]
18:00開演
13日[日]
15:00開演

会場

観客のまなざしが、
不在の「あなた」を呼び起こす無人劇
一人暮らし、公団、川、歌、植物、庭…様々なもの
を足がかりにしながら今回相模が構想するのは、
誰もいない舞台。だが、やがて劇場からは縁遠い
らしい、なにかの音が聴こえてくる。相模が山科
で実際に生活しながら得た「語り」を劇場に召喚
し、劇場空間を満たすとき、わたしたちは何を、そして誰を想像するだろうか。

北 遠山昇司

フェイクシンポジウム『京都の深度と広がり——語り継がれるランドスケープ』(仮)



遠山昇司

構成・演出・出演 | 遠山昇司
ドラマトゥルク・出演 | 福島幸宏 (京都府立図書館)
出演 | 恵谷浩子 (奈良文化財研究所景観研究室研究員)、
芹沢高志 (P3 art and environment統括ディレクター)、
影山裕樹 (編集者)、田村尚子 (写真家)、
星野裕司 (熊本大学准教授)、松田法子 (京都府立大学院専任講師)、ほか
地域ドラマトゥルク | 神田真直、丸木伸洋、室谷智子
協力 | 京都府立図書館

シンポジウム／演劇

日時

2019年
2月2日[土]
18:00開演
3日[日]
15:00開演

会場

京都市北文化会館
ホール

現実と虚構が混ざり合う先に見えてくる、
京都の新たな風景
研究者、編集者、アーティストらが出演者となる“フェイク”シンポジウムを開催。何気ない場所に張り付く物語＝
風景の数々。一見して脈略のない地点を想像力によって
結びつけ、京都のまちの在り様を周縁から考える。

書籍『マジカルランドスケープ in 京都』(仮)

公演とセットで京都の街を楽しめる書籍を制作。京都を舞台に多数の著作を
発表してきた気鋭の小説家・花房観音と円居晩による書き下ろし小説と、今
回遠山がディレクションし独自に編まれた京都の風景とガイドが交差し、京都
の郊外の新たな楽しみ方と歩き方を提示します。
エディトリアル・ディレクター | 影山裕樹 写真 | 田村尚子



花房観音

円居晩

右京 きたまり『あたご』



きたまり

振付・演出 | きたまり 出演 | 斎藤綾子、益田さち、野村香子
ドラマトゥルク | 木ノ下裕一、武田力
地域ドラマトゥルク | 中智紀

京都市右京ふれあい文化会館
ホール

日時

2019年
3月23日[土]
18:00開演
24日[日]
15:00開演

会場

山と生活、人々の祈り。愛宕山へ捧げる、奉納の舞
古くから火の神として京都の人々から厚い信仰を
集めてきた愛宕山。芸能にも影響を与え、狂言、
舞、落語、和歌などにも数多く登場するこの山へ
の人々の「祈り」に注目し、現代における奉納の
舞として、新作舞踊を披露する。

舞踊

主催

いまを考えるトークシリーズ



多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわる
ゲストを招きます。複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」。その手掛かりを探
り、ともに考えるシリーズです。

[Vol.5]

「家族」という名の国境を超えて(仮)

日時 | 11月10日[土] 16:00開始

ゲスト | ヤン ヨンヒ (映画監督)、井上麻矢 (劇団こまつ座代表)

北朝鮮と日本に離れて暮らす自身の家族の物語を描き続けているヤンヨンヒ氏と、父の
劇団を引き継いで代表を務め、精力的な劇団運営を行う井上麻矢氏を迎えて、家族と
いう存在が自身の作品や、現在の活動に与えた影響について、トークを展開します。



ヤン ヨンヒ

1964年、大阪市生野区鶴橋生まれ。コリアン二世。米国NYニュースクール大学大学院
コミュニケーション学部メディア研究科で修士号を取得。2005年、デビュー作のド
キュメンタリー映画「ディア・ピョンヤン」を発表。その後、2009年にドキュメンタリー
映画「愛しきソナ」を発表。2012年には初の劇映画「かぞくのくに」を発表。2018年
3月、書き下ろし小説『朝鮮大学校物語』(KADOKAWA)を出版。



井上 麻矢

劇団こまつ座代表。作家、劇作家の故・井上ひさしの三女。こまつ座で上演する年4
〜6本の舞台のプロデュースを務めるほか朗読、文筆業など多岐に渡り活動してい
る。近著に「夜中の電話一父・井上ひさし最後の言葉」、「小説 母と暮せば」(山田洋
次監督と共著)、「女にとって夫とはなんだろうか」(西館好子氏と共著)。

[Vol.6]

「人間の展示」と博覧会〜近代日本の他者像(仮)

日程 | 12月上旬(予定) ゲスト | 小原真史 (映像作家／キュレーター) ほか

小原真史氏が調査・収集を続けている「人間動物園」の写真から近代日本における他
者像と博覧会をはじめとした国家イベントとのかかわりについて考察します。



小原 真史

監督作品に「カメラになった男ー写真家中平卓馬」。2005年に第10回重森弘淹写
真評論賞、2016年に日本写真協会賞学芸賞を受賞。IZU PHOTO MUSEUM研
究員として荒木経惟展、宮崎学展、増山たづ子展、小島一郎展などを担当。単著に
『富士幻景』、共著に『時の宙吊り』、『戦争と平和』、『森の探偵』などがある。

定員 | 各回80名 参加費 | 無料(事前申込優先) 申込開始日 | 10月9日[火] (Vol.5)

※当日お席がある場合は申込無しでもご参加いただけます

※Vol.6〜8の詳細は、ロームシアター京都のWEBサイトでご確認ください

申込方法 ロームシアター京都WEBサイト内の専用予約フォーム、あるいはFAXでお申し込みください。
FAXには、参加希望日、お名前、参加人数(4名様まで)、ご連絡先お電話番号をご記入ください。

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

日程

通年

[全4回予定]

会場

パークプラザ
3階共通ロビー



京都岡崎 蔦屋書店



京都モダンテラス



ルーム・スクエア



マルシェ

賑わいスペースについて

ルームシアター京都が位置する京都岡崎エリアは、東山を望む景観、琵琶湖疏水、美術館、動物園、寺院・神社など多彩な文化資源を擁しています。

そうした京都岡崎エリアの賑わいの中心として、ルームシアター京都は、ホールでの催物に加え、日常的にさまざまなサービスやイベントを展開しています。観劇を目的とした方だけでなく、近隣にお住まいの方や観光客の方など、多くの人々の生活や文化芸術と地域のつながりを大切にしています。

パークプラザには、飲み物を飲みながら読書や勉強などができるブック&カフェ(京都岡崎 蔦屋書店／スターバックスコーヒー)、終演前後の語らいを楽しむことのできるレストラン(京都モダンテラス)があります。岡崎公園とつながるルーム・スクエアは、マルシェなどの野外イベントや芸術作品の展示などを通じて、子どもから大人まで楽しめる空間となります。冷泉通と二条通をつなぐブロンナードは誰もが自由に通り抜けることができますので、総合案内・チケットカウンターやキオスク(ファミリーマート)に気軽にお立ち寄りいただけます。



営業時間 | 10:00～19:00 場所 | パークプラザ3階

料金 | 入場無料 ※一部整理券が必要な場合あり

共同運営 | 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人ルーム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社

主催

ルームシアター京都 リサーチプログラム



プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批判分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、リサーチプログラムを実施します。リサーチテーマは、2017年度に引き続き、「古典芸能と現代演劇」と「子どもと舞台芸術」です。最終報告会を2019年3月(日程調整中)に行います。

リサーチャー | 古典芸能と現代演劇：新井静、中谷森、林立騎
子どもと舞台芸術：大野はな恵

メンター | 吉岡洋(京都大学こころの未来研究センター特定教授)、
若林朋子(立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授、
プロジェクト・コーディネーター)

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

日程

7月－
2019年3月

主催

ルームシアター京都×
京都市ユースサービス協会連携事業

未来のわたし 劇場の仕事



劇場の現場に興味のある若者を対象に、劇場の仕事を紹介し、体験してもらうプログラムです。後期は、木ノ下歌舞伎と取り組む「レパトリーの創造」を題材に、参加者一人ひとりの関心や将来像に寄り添いながら、「劇場の仕事」をレクチャーと実践でひも解きます。

参加者募集期間 | 10月末～12月末予定

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、
公益財団法人京都市ユースサービス協会、京都市

日程

2019年
1月-2月予定

TICKET

チケットのご購入について

【WEB】オンラインチケット 24時間購入可／要事前登録（無料）

※詳しくはロームシアター京都または京都コンサートホールのWEBサイトへ

URL <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

【電話・窓口】ロームシアター京都 チケットカウンター

TEL 075-746-3201（窓口・電話とも10:00～19:00／年中無休 ※臨時休館日を除く）

【電話・窓口】京都コンサートホール チケットカウンター

TEL 075-711-3231（窓口・電話とも10:00～17:00／第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日）

CLUB

京都コンサートホール・ロームシアター京都 Club会員募集中！

いつでもご入会いただけます。

入会金	年会費	会員期間
無料	1,000 円（税込）	1年間 （4月1日～翌年3月31日）

特典 1 チケット 優先予約 ※指定公演のみ	特典 2 チケットの 割引販売 ※指定公演のみ	特典 3 公演情報等 のご送付	特典 4 お電話1本で 楽々チケット購入！など
---	--	---------------------------------	---

詳細はロームシアター京都チケットカウンター（TEL.075-746-3201）までお問合せください。

ACCESS



〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

- 京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番出口より徒歩約10分
- 京阪電鉄「神宮丸太町」駅下車2番出口より徒歩約13分
- 市バス32・46系統、京都岡崎ループ「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- 市バス5・100・110系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車徒歩約5分
- 市バス31・201・202・203・206系統「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分

CONTACT

TEL 075-771-6051（代表） **075-746-3201**（チケットカウンター）

FAX 075-746-3366 **URL** <https://rohmtheatrekkyoto.jp/>